亡命中の教会

ボー・スターン・ブレイディ

2024年・8月・17日

準備: 1 回限りのメッセージ、来週はエペソ人への手紙に戻ります。これらのメッセージをいくつか散りばめているのは、私たちが時代をよく読み、現在私たちの生活に日々影響を与えている問題について語ろうとしているからです。

“人々がこれらの言葉を聞いているときに、イエスはなお一つの譬をお話しになった。それはエルサレムに近づいてこられたし、また人々が神の国はたちまち現れると思っていたためである。それで言われた、「ある身分の高い人が、王位を受けて帰ってくるために遠い所へ旅立つことになった。そこで十人の僕を呼び十ミナを渡して言った、『わたしが帰って来るまで、これで商売をしなさい』。**”**

ルカによる福音書 **19:11-13** 口語訳

KJV では、「私が来るまで占領しなさい」とあります。

占領 = 居住者。

2種類の居住者**.**

私が皆さんに提案したいのは、私たちは賃借人だということです。私たちは契約上は地球に縛られていますが、契約上は天国にコミットしています。私たちは別の王国の相続人であり、別の王国の国民です。ここは賃借人です。天国が来ることは確かですが…その間、私たちはどのように生きればいいのでしょうか? この家をうまく利用するにはどうすればいいのでしょうか?

文脈から切り離されてグリーティング カードに貼り付けられることが多い聖句を取り上げ、より良く生きるために、よりよく理解する必要があります。

“主は言われる、わたしがあなたがたに対していだいている計画はわたしが知っている。それは災を与えようというのではなく、平安を与えようとするものであり、あなたがたに将来を与え、希望を与えようとするものである。**”**

エレミヤ書 **29:11** 口語訳

エレミヤ書 29 章 11 節は、自由の地、勇敢な人々の故郷であるこの地に住む私たちにとって、美しく、希望に満ち、感動を与えるものです。しかし、バビロンに捕囚されていた人々にとって、これはまったく異なる読み物だったでしょう。なぜなら、それは良い知らせである一方で、非常に悪い知らせの直後にもたらされたからです。

(ユダからバビロンまでの簡単な歴史…) イスラエル - 19人の王、良い王は0人。ユダ - 20人の王と1人の女王 - 8人の良い王と1人の本当にひどい女王。イスラエルは紀元前721年にアッシリアに陥落し、歴史からほぼ忘れ去られています。ユダはさらに200年間存続しますが、609年にヨシヤ王が亡くなり、その息子たちが後を継ぎますが、彼らはバスの車輪を動かし続けることができません。同時に、バビロンが世界の舞台で超大国として台頭し、次々と国々を飲み込んでいきます。彼らはユダに目を向け、その周りに包囲壁を築きます - 紀元前586年についに陥落し、ユダの人々のほとんどは捕虜としてバビロンに連れ去られます。敵の領土です。彼らは500マイル以上も行進して故郷に連れ去られますが、そこでは習慣を何も知らず、言葉も話せず、食物連鎖の底辺にいます。彼らは名前を変えられ、権利を剥奪され、技術的にはまだユダの王位継承者であるにもかかわらず、異国の地で捕虜となっている。

この混乱と悲惨と絶望の中に、エレミヤの手紙が届きました。神の言葉です。彼らは希望を求めています。希望を切望しています。そして手紙にはこう書かれています…

万軍の主、イスラエルの神は、私がエルサレムからバビロンに捕囚として移したすべての人々にこう言われる。**5**「家を建てて住み、畑を作り、その産物を食べよ。**6** 妻をめとって息子や娘をもうけよ。息子には妻をめとり、娘には嫁がせ、彼らにも息子や娘をもうけさせよ。そこで数を増し、減らしてはならない。**7** また、私が捕囚として移した町の平和と繁栄を願い、そのために主に祈りなさい。その町が繁栄すれば、あなたも繁栄するからである。」**8** まことに、万軍の主、イスラエルの神はこう言われる。「あなたたちの中の預言者や占い師に惑わされてはならない。彼らに見させる夢に耳を傾けてはならない。**9** 彼らは私の名によってあなたたちに偽りの預言をしている。私は彼らを遣わしていない」と主は言われる。 **10** 主はこう言われる。「バビロンで七十年が満ちると、わたしはあなたのところへ行き、わたしの良い約束を果たして、あなたをこの場所に連れ戻す。 **11** わたしはあなたのために立てている計画を知っている」と主は言われる。「それはあなたを繁栄させ、あなたに災いを与えようとするものではなく、あなたに将来と希望を与えるためのものである。

状況によって状況が変わるのが分かりますか? 70 年。あなたは長い間ここにいることになります。彼らがこの亡命期間をどう過ごすかが、個人としても国民としても、彼らの人生と遺産に大きな違いをもたらすでしょう。もし私が故郷から 500 マイルも離れた場所で亡命生活を始めたばかりで、「あなたは 70 年間ここにいることになります」と聞かされたら、その後はほとんど何も聞こえないでしょう。自分の泣き声でかき消されてしまうでしょう。しかし後になって、思い切り泣いた後、他の選択肢を尽くした後、私はその手紙をもう一度取り出して希望に満ちた部分を読み、行きたくない場所に閉じ込められている間、どうやって生きるかを教えてくれる部分を何度も何度も読み返すでしょう。そう、私はこのひどい新しい場所にいるのです。この場所を故郷にするにはどうすればいいのでしょうか?神はエレミヤを通して、神が再び彼らを迎えに来るまで、歴史の中で、そしてバビロンの中で、自分たちの場所をどのように占めるべきかについて、非常に明確な指示を人々に与えています。そして、これらの指示は私たちにとっても非常に貴重なものだと思います。

指示の中心は「増加」という言葉です。これは大きな意味があります。なぜなら、彼らはすべてを奪われた人々だからです。彼らは骨だけの姿です。文字通り何年も飢えていました。神はこう言っています。「この亡命期間を利用して、あなたの骨に肉をつけ、あなたを元気にし、戦闘体重を取り戻し、あなたが誰であるかを思い出させるつもりです。そして、私があなたの中に起こすこの変化は、あなたが住むこの新しい場所に広がるでしょう。」これが神が彼らに指示する方法です。そして、ここには、永住地ではない土地の賃借人である私たちにとっても、たくさんの宝と指示があると思います。

1. 建てる

-落ち着いてください。ここに家を建ててください。根を下ろしてください。ここで存在感を高めてください。(例: 新しい隣人 - 彼らが転売屋ではなく居住者だとわかるまで、植物やメモを持ち出したくありませんでした。) 私にとっては、これは挑戦的なことです。なぜなら、亡命生活では、構築するよりも判断したくなるからです。プロジェクトがうまくいっていない限り、自分の名前をそれに載せたくはありません。むしろ、この場所がどんなにひどい場所か、自分が責任者だったらもっとうまくできるだろうと、立ち止まって話したいです。構築は難しいです。 建設には、より良い王国を建てるというビジョンを放棄する必要はありませんが、石を投げるのをやめてハンマーを手に取る必要があります。

箴言 **14** 章は、妻として、そして母として私の人生を導く聖句です。「賢い女は自分の家を建てるが、愚かな女は自分の手でそれを壊す。」

私は自分の言葉、行動、態度でこの世界を破壊することなく、一時的な住人としてこの世界で暮らすことができます。そして、より大きく、より良い王国に対する同じ信念を共有していない人々とここで効果的に暮らすことができます。

2. 植える

あなたが住んでいる場所の生命を与える資源を増やしてください。イエスの信者として、私たちは亡命生活を送る間、何を植え、育てることができるでしょうか？

イエスの異父兄弟であるヤコブは、激しい迫害に直面している新しいディアスポラに手紙を書き、こう言っている:

> “あなたがたのうちで、知恵があり物わかりのよい人は、だれであるか。その人は、知恵にかなう柔和な行いをしていることを、よい生活によって示すがよい。 しかし、もしあなたがたの心の中に、苦々しいねたみや党派心をいだいているのなら、誇り高ぶってはならない。また、真理にそむいて偽ってはならない。そのような知恵は、上から下ってきたものではなくて、地につくもの、肉に属するもの、悪魔的なものである。 ねたみと党派心とのあるところには、混乱とあらゆる忌むべき行為とがある。 しかし上からの知恵は、第一に清く、次に平和、寛容、温順であり、あわれみと良い実とに満ち、かたより見ず、偽りがない。 義の実は、平和を造り出す人たちによって、平和のうちにまかれるものである。”

ヤコブの手紙 **3:13-18** 口語訳

捕らわれの身で私たちが育てるものは、私たちが誰で、誰のものかについて多くを語っています。私たちは善良さ、正義、知恵を私たちの世界に植えます。私たちの世界でイエスの道を生きることによって、イエスの性格を植えます。私たちは種をまいて、まいって、まいります。そして、時には今ここで何か良いものを刈り取りますが、ほとんどの場合、私たちはイエスが「私が来るまで、そこに住みなさい」と言って私たちに託したビジョンに種をまいています。

そのとき、あなたたちはわたしを呼び求め、わたしのもとに来て祈るであろう。わたしはあなたたちの言うことを聞く。13 あなたたちはわたしを捜し求め、心を尽くしてわたしを捜し求めるなら、わたしを見つけるであろう。14 わたしはあなたたちに見つけられ、捕囚からあなたたちを連れ戻すと主は言われる。わたしはあなたたちを、わたしが追い払ったすべての国々、すべての場所から集め、わたしがあなたたちを捕囚として連れて行った場所に連れ戻すと主は言われる。

3. 結婚する

これを別の言葉で表すと、「献身」です。結婚には、愛、友情、喜び、親密さなど、多くのことが含まれますが、究極的には、結婚とは将来のために何かを育み、創造することです。結婚とは、誠実で信頼できる同盟を結ぶことです。神は、神の民に、相互依存を高めることに献身し、それによって影響力、人数、強さ、安全性を高めるよう求めています。 結婚して家族を持つことにコミットするには、将来に対する希望が必要です。(例: 1964 年、私の祖母は「人口爆発」について、そしてイエスがもうすぐ再臨し、すべての子供たちが迫害され、殺されるか、奴隷にされるほど厳しい時代になるので、誰ももう子供を持つべきではないと動揺していました。「誰も子供の世話をしたくないでしょう」と祖母は言い、3 人の子供が全員子供を産んだことをとてもありがたく思っていました。しかし、その後、私の母は予期せず私を妊娠していることに気付きました…そして、彼女は 2 人の義理の姉妹とイベントで散歩に行き、妊娠していることを義理の母に言うのが怖いと涙ながらに告白しました。彼女が秘密を話すとすぐに、叔母のネリーは真面目にうなずいて「私も」と言いました。そして叔母のキャロルは…「私も」と言いました。3 人とも妊娠していて、イエスがもうすぐ再臨すると確信していた祖母に言うのが怖かったのです。私の母はその後私を産み、叔母たちは私の愛する従兄弟のランディとアンジーを産みましたが、私たち 3 人はさらに20人の子供の親になる。 そして、私たちの誰もが、生まれてきたことや今の子供たちを産んだことを後悔しているとは思いません。私たちは、とてもつらい時期を生きてきたでしょうか。ええ。でも、私にとって子供たちは、そんな時でも、重荷ではなく、慰めと力になってくれました。物事がほとんど不可能に思えた日にも、私が頑張り続けたのは、子供たちや孫たちのために築いている未来に集中し続けたからです。遺産。遺産にコミットすること。強くて美しいものを残すことにコミットすること。それに結婚が含まれるかどうかは別として、一部の人にとってはそうではないでしょうが、命を与える同盟関係を築き、世界に平和の足跡を増やす、献身的で相互依存的な関係を築く努力から、私たちの誰もが免除されるとは思いません。

4. 平和を求める

この教えが私にとってこれほど意味深いことは今までにありませんでした。私たちはここアメリカで、かなり不安な亡命生活を送っています。分裂は至る所にあります。憎しみと争いと争いが、私たちの小さな賃貸住宅の屋根の上に濃い霧のように漂っています。それは醜く、重く、混乱しています。そして時々、私たちの周りに絡み合っているすべての問題に踏み込んで、一糸乱れず解きほぐし、根本にたどり着き、正しいと思われる答えや私たち全員が賛同できる原則にたどり着きたい衝動にかられます。なぜなら、そうすれば、私たちは神を信頼し、神が戻ってくるまでここで幸せに暮らすことができるからです。しかし、この世の王国だけに焦点を当てた議論に参加するとすぐに、私は怒りとフラストレーションの無限ループに陥り、平和からどんどん遠ざかっていくのを感じます。そして、私はこれらの問題を気にしているが（気にするべきではないと言っているわけではない）、また、大文字の「真実」を気にしているが、正義、平和、喜びを構成要素とする王国の王に自分の人生を捧げることを誓ったことを否定することはできない　もし私が神を知っていると主張しているのに、私の人生に正義、平和、喜びの明白な証拠がないとしたら、私は賃貸住宅の修繕にあまりにも集中しすぎていて、神が築いている王国に十分集中していないのかもしれません。　私たちは、神が私たちを植えてくださった場所の平和を求めるよう求められています。そして、私がある種の恐ろしい妥協を提案しているように聞こえるかもしれないことはわかっています。しかし、平和を求めることは、正義に歩むことの敵ではありません。平和を求めることは、バビロンの人々全員に私の見解に同意させようとする試みではなく、また、彼らの見解に合わせて自分の見解を変えることでもありません。平和を求めることは、壊すのではなく築くことをいとわないこと、話す前に正しい心と正しい態度を得るために必要な時間をかけること、人々への愛を正しいことへの愛と交換しないことです。　平和を求めるということは、イエスが私の心と反応、そして私が住んでいる街に対する私の態度を形作ることをいとわないということです。平和を求めるということは、その街の政策にどれほど反対しているかを話すのと同じくらい、その街の平和のために祈ることをいとわないということです。正義の道を歩んでいなければ、真の平和を知ることはできません。これらの要素は相互に依存しています。そして、平和がなければ、真の喜びを知ることはできません。神の王国の相続人として、この3つすべてを歩むことが求められています。しかし、他の人々が正義の道を歩まないことを選んでも、私は真の平和と喜びを知ることができます。私は混乱の中で家を建てることができます。これは私の最終目的地ではなく、現在一時的に住んでいるこの悲しい世界に命をもたらしたいとわかっているからです。

世界で一番好きな場所はイタリアのフィレンツェです。夫が生きていたときに訪れ、亡くなった後、フィレンツェは私の魂に良い場所だと決めました。1か月間滞在しました。街に住み、近所の人たちと知り合い、言語やレシピをいくつか学びました。毎朝窓の外で教会の鐘の音が聞こえました。私にとってほぼすべての瞬間が魔法のようでした。ここは、私がこの地上で到達できる天国に最も近い場所だと思います。

その後、サンディエゴのリトルイタリーを訪れました。とても良かったです。おいしいイタリア料理を見つけ、イタリア語も少し聞きました。ある瞬間、まるでイタリアにいるようでした。

その後、オリーブガーデンに行きました。ブドウが描かれた漆喰の壁。ロビーには「ビエンヴェヌート」の看板。それでも…イタリア語は聞こえず、イタリア料理も食べませんでした。「わあ、オ

レゴン州ベンドのフランチャイズレストランにいたことをすっかり忘れていた」と思ったことは一度もありませんでした。

オリーブ ガーデンがイタリアでなくても構いません。ただ、イタリアにしようとすると本当に問題になります。もし私がオリーブ ガーデンのドアの外で嘆願書を配り、本物のイタリアではそうしているからイタリア語を話せとか教会の鐘を鳴らせとか主張する女の子だったら、なんて馬鹿げたことでしょう。オリーブ ガーデンの料理がトスカーナの味と違うからと言ってテーブルをひっくり返したら、なんて不愉快なことでしょう。オリーブ ガーデンの最高の姿は、本物の小さな商品化された模造品です。そして私ができる最善のことは、人々にそのことを思い出させ、本物で真実で美しいものへと導くことです。

イエスの道: この世の賃借人となり、美しく命を与える家を創り出す。建てる。植える。献身する。平和を求める。

返事